

第8回町田市地域福祉計画審議会 議事録

日 時：2022年1月18日（火） 19：00～20：30

会 場：3-1 会議室（オンライン会議）

出席者：

審議会委員：宮城孝会長、佐藤繭美委員、長崎敏宏委員、鯨岡健人委員、
町野眞里子委員、新井邦夫委員、安達廣美委員、森公男委員、
村田隆行委員、陶山慎治委員、馬場昭乃委員

事務局：地域福祉部 中村部長
福祉総務課 吉本課長、三浦担当課長
総務係 土方係長、一面主事
事業係 八木係長

（株）生活構造研究所 柏木氏、近藤氏

関係課：市民協働推進課 石田課長、渡辺担当係長、安達担当係長、谷口主事
町田市社会福祉協議会：井藤課長、仲泊係長、佐々木係長

欠席者：

審議会委員：増子達也委員、中村伊佐夫委員、岡田栄委員

資 料：

【資料1】【改訂版】町田市地域ホッとプランの第2部「わたしの地区の未来ビジョン」
について

【資料2】答申書（案）

【資料3】町田市地域ホッとプラン（答申案）

議 事：

1. 開会

会 長：皆さん、こんばんは。先ほどお話があったように、1年半にわたる本審議会も本日が最後になる。対面で行いたかったのだが、ご存知のように火曜日としては最高のコロナの感染状況であり、致し方ないと思う。

後で事務局から説明があるが、この後の地区別懇談会についても開催を変更せざるを得ない状況だと思うので、その辺りにもご意見をいただく。また、今日は最後になるので、委員の皆さま方から一言ずつ、この計画に対しての期待や感想を1人1分程度でご発言いただければと思うので、ぜひ準備していただければと思う。また、今日は欠席の方が出ているが、恐らくコロナの感染対策等で、皆さんも含めて現場で追われているのではないか、そのような状況もあるのではないかと思った。では、次第に沿って進める。

2. 報告事項

(1) 「わたしの地区の未来ビジョン」の進捗状況について

(事務局 資料1 説明)

会 長：私も聞いているが、事務局はこれまで地区協議会の関係者とこの地区別懇談会を開くまでに（各地区）3回ほど協議をし、万全な準備をしてこられた。そのことに敬意を表したい。しかし、残念ながら、このコロナの感染状況である。安全性が第一であり、2月中旬までの開催に関しては延期し、コロナの感染状況により日程を再度検討するということである。

また、今回この計画自体も、市民協働推進課と一緒に作ってきた。その意味では、今までの関係者、町内会・自治会、民生委員・児童委員、青少年健全育成地区委員などの地縁組織だけではなく、私も職務代理も要望を出しているが、子育てをしている世代や高校・大学の若者、商店街、消防団、PTAなど、幅広い人たちに参加していただくアプローチをしているという説明があった。この点について、ご質問やご意見はいかがか。

いつ地区別懇談会ができるか。これはあくまでも私個人の見通しだが、八王子市はワクチンを2回接種した人が50%になり、感染者が減っている。これから町田市は、恐らく3月までいけばワクチンの3回目の接種者が50%ぐらいいくのではないかと思われるが、3月はまだ十分に減っていない可能性もあるので、この辺りの感染状況、今日も1,000人を超しているということなので、まだ拡大状況はしばらく続くと思う。

その意味では、慌てずに準備をして、その間、オンライン等も含めて関係者と協議をしていただき、日程と会場が決まったら広く関係者に知らせていく。また、例えば当日のやり方と当日話し合いで出た結果もSNSなどを使って参加できない方に知らせていく。パワーをためて、大事な「わたしの地区の未来ビジョン」に多くの方に関心を持ってもらい、さまざまな建設的な発言をいただく。これが大事だと思うので、残念ではあるが、この1月、2月辺りは次に向けてのエネルギーをためる一つの期間にされたらよいのではないかと個人的には思っている。

陶山委員のところも準備されていたと思うが、いかがか。

委 員：残念だというのが率直なところだが、致し方ないと自分に言い聞かせている。市民協働推進課、福祉総務課の行政担当の方たちに3回、4回と地区協議会の役員会に足を運んでいただき、地域の資源の確認や、今まで声が掛けられなかった方たちに対するアプローチの方法など、さまざまな話し合いをしてきた。皆さんからもあったが、子育て世代の方や若い人たちの意見も取り入れていこうということで、具体的に鶴川地区は大学や高校などもあるので、そこに丁寧な話をしに行った。また、鶴川地区中学校の校長先生たちの校長会で、中

学生自身が地域の計画を学んでいこうということも準備をしてくださっていた。それから、子育て中の親御さんと小学6年生の子と一緒に参加するなどの準備をしてくれていた。

それこそ地区協議会の役員や今までの方たちではなかなか想像し得なかったことなどもいろいろと出てきてくれればと期待をしていた。とはいえ、しっかり感染予防に努めながら、安心して皆さんが参加できるようになったらまた実施したい。今、無理にやって中途半端になるよりも、十分協議をして安心して参加できるようになればよいと思っている。楽しみは先にあるというつもりでいるところである。

会長：ありがとうございます。お子さんたちも本当にこのコロナで、修学旅行が延期になった、秋に行く予定がまたコロナでもしかしたら行けないかもしれない、お子さんが泣いたなどという話も聞いている。八王子もスキー教室をやるようだが、これもなかなか厳しいと聞いている。

逆に言うと、できなかったことを、コロナが収まったときに地域で、皆で楽しいことをやるというパワーに変えていきたいとつくづく思う。

他にはいかがか。社会福祉協議会では地域福祉活動計画の検討に入っているが、地区別懇談会などでいろいろ行政と協働して準備をしてきて大変だったと思う。その辺りも含めて、馬場委員はいかがか。

委員：先生がおっしゃったように、今、活動計画を策定中である。この地域ホッとプランが進んだらそこまで活動計画がいく、また地域ホッとプランが進んで活動計画がついていくと、行きつ戻りつしながら作っている状況である。

コロナに関して言えば、生活資金が延長に次ぐ延長をしていたのだが、ここに来て、延長しても一人ひとりの期限があるので、それはもう過ぎてしまった。そういう意味では、もう政府からのお金を借りることはできない。民間のお金もなかなか難しいというところで、コロナ禍で議論があったような食材の提供という形で今、社協では対応しているところである。

コロナに関しては安全第一なので、前半の5カ所について当面見合わせるというのは妥当な判断だと思っている。

会長：社会福祉協議会の特例貸し付けのところは、これまでにない新たな課題というか、ニーズ、生活困窮者の方たちの課題が出ている。その意味では、その声なども地域でどのように捉えていくか、そのようなところも社協のほうから地区別懇談会に向けてぜひ発信していただきたいと思う。

他の皆さんからはいかがか。安達委員、町内会・自治会の立場でいかがか。

委員：町内会としては、確かに今、会長や陶山委員からも発言があったとおり、これはどうしようもないことである。オミクロン株が右肩上がりどころではなくて垂直に感染が拡大してしまっている状況の中で、確かに前半の5地区は延

期、恐らく残りの5地区も延期はやむなしとなるのではないかと思います。

せっかくこれだけの良いものを仕組みとして取り組んでいくのであれば、コロナの完全なる終息までは非常に難しいと思う。一日も早く好転という形で進んで、状況を見ながら、ぜひ欠員のないように実施できればと思う。各地区の協議会だけで委員が集まるとしても、恐らく決まった人間になってしまうのではないかと一つ一つの大きな懸念材料もある。

今後このような形でやることができれば、あらゆるところに福祉総務課と市民協働推進課のほうでも話かけてくれているということなので、ぜひ皆さんで集まってもう一度よい議論を交わし、完璧なものに作り上げていければよいのではないかと考えている。

われわれ地区長会においても、このままいけば来月の中止はやむなしという形に追い込まれるという懸念もある。また、今月の30日には総務会も開催する方向である。これは人数的に少なくとも5人ぐらいの会議となるので、その時にはこの件も踏まえて打診してみたいと考えている。

会 長：ありがとうございます。今日の内容などを踏まえて、この機会に地域のまちづくりについて非常に幅広い市民の方に活発に参加してもらおうということで、コロナの感染がある程度落ち着いた中でということとをぜひ関係役員の方にもお伝えいただければと思う。

3. 協議・検討事項

(1) 答申案について

(事務局 資料2, 3説明)

会 長：今のところ来週の月曜日に、私のほうから市長に答申をする予定になっている。目標値についてご説明があったが、これについて皆さんからご質問やご意見等はいかがか。

先ほど市民協働推進課から説明があった「(仮称) 問題解決人の寄合」に関しては、パブリックコメントでもあったが、一般市民の方が問題解決人というのは非常に負担を感じるだろうということである。今、社会的孤立がイギリスでも日本でも課題になっているが、イギリスの社会的手法の中では、孤立している人を地域の活動や人に結び付けるリンクワーカーを養成する研修などが起こっているようである。リンクワーカーというのは片仮名なので日本人には親しみにくいと思うが、もう少し一般市民の方が参加しやすいようなネーミングと説明を、ぜひ工夫していただければと個人的にも要望している。

事務局の説明についてのご質問やご意見等がある方は、ミュートを外してご発言いただければと思う。

委 員：10年計画なので、目標値は10年後の数値を置いたという理解でよいか。

会 長：事務局いかがか。

事 務 局：そのとおりである。

会 長：私も少し気になったのだが、その説明でパーセントと、確か件数などがあった。件数は10年間の延べ件数なのか。目標値は大事なので、見る方が分かりやすいようにそれぞれの目標について少し説明をしておいたほうがよいだろうと思った。

実は地域福祉計画の目標値というのは、サービス量などではないので、他の自治体も含めてなかなか難しい。かなり高い目標もあるが、しかし10年後ということであるので、最初の3年間か5年間が非常に重要だと思う。特に、市民の方たちが参加する部分はそう簡単ではないと思う。

先ほどの地区別懇談会でも、非常に多くの市民にということがあるので、そのようないろいろな試みを通してどのようにブラッシュアップしていくか。アンケートは毎年やるということなので、Plan、Do、Checkを年ごとにしながら、目標値に近づけていくプロセスと方法が大変大事になると思う。目標値の達成、また、目標値が設定されていない内容についても、これだけタイトな計画になったので、進行管理がこれからますます大事ではないかと思っている。

事 務 局：事務局から1点よろしいか。先ほどアンケートを毎年実施すると会長からご発言があったが、町田市地域ホッとプランとしてのアンケートは、まずは中間見直しの際に実施する予定である。

先ほど市民協働推進課から申し上げた市民意識調査は、毎年度企画政策課が実施しているものであり、そこは分けて考えていただければと思う。

会 長：市民意識調査と町田市地域ホッとプランのためのアンケート調査で出てくる目標値が違うということで、その辺の形が異なることを確認したいと思う。

この計画の概要版やこれからの進行管理について、私も承知していないが、今の時点で何か考えがあれば教えてほしい。この目標値をモニタリングしていく意味でも進行管理は大事だが、それは事務局で今説明できる点はあるか。

事 務 局：進行管理については、資料3の100ページをご覧いただければと思う。「第6章 プランの推進に向けて」ということで記載しているが、プラン策定後はPDCAのサイクルにより計画に紐づく取組等について、毎年度実施状況等の確認を行っていきたいと考えている。また、5年後に予定している計画の見直しに対して、3年後を目途に見直しに係る作業を行っていきたいと考えている。進行管理については以上である。

また、概要版については、パブリックコメント実施時にも作成しているが、その内容をこの計画本編に合わせながら、概要版も作成作業を進めていきたいと考えている。

会 長：その意味では、概要版が地区別懇談会の時に配布ができ、また、広く市民の方

にお知らせができる、そこで関心を持ってもらう。そのような意味でも、逆にちょうどタイミングが良くなる可能性もあると思っていたところである。では、ご質問やご意見等はないようなので、先ほどの「(仮称) 問題解決人の寄合」は残されているが、それはまた私のほうで預からせていただき、それも含めて本日の「町田市地域ホッとプラン」の答申案についてご承認いただけるか。

(委員、異議なし)

ありがとうございます。では、事務局と今後調整させていただき、来週月曜日の夕方の予定だが、私のほうで町田市長に答申を行いたいと思う。

では、「町田市地域ホッとプラン」の策定に関しては本日が最後の審議会となるので、委員の皆さまから一言ずつ、1分程度で感想や期待ということでお話しいただきたい。106 ページにこの計画審議会の委員名簿があるので、この順番で、順次ミュートを外してお話しいただければと思う。

では、初めに安達委員から、よろしく願います。

委員：目標値の数字が改めて掲げられるというのは、漠然としているような気はする。このような数字をあげるためには、町内会としてもいまひとつの努力が必要ではないかと考えている。

「地域ホッとプラン」に関しては、内容的に把握するとかなり素晴らしいものに作り上げられていると感じるが、裏を返せば、一体何をやればよいのだろうかという捉え方もできるのではないかと。説明を受けるに当たっても、分かるのだが、いまひとつ腑に落ちないという受け止め方もできる気がする。

これは、最終的にすべて地区別懇談会が終わったらどのような形でとりまとめ、その地域に落とし込むことができるのか。世代交代ではないが、役員等も年々代わっていく中で果たしてどこまで継続できるか。これに関しては前任者がしっかり申し送り、しっかりした説明ができれば、何とか維持できるのではないかとという気もする。

とりあえずこれに書かれているものに関しては、1 ページからすべて読破したわけではないのでまだ何とも言えないが、印象的に見ればすべて良い方向にまとまっているのではないかと。ですので、これに則って、できるだけ前進という形で各地区の地区長さんたちにも話を進め、ぜひ良い方向にまとめられるように頑張らせていただきたいと思います。

会長：ありがとうございました。続いて新井委員、願います。

委員：今日、「地域ホッとプラン」の答申案ということで一通り見せていただいた。かなり広範なプランになり、今後、これは私の確認の意味も含めて少し申し上げ

げるのだが、これを会長が市長に答申され、そこで市から当然発表になるが、これに関わる団体だけではなくて、市民に対する発表の仕方が大事である。それから、今後これを地区協議会や地区別懇談会などでそれぞれの団体は継続していこうが、これをさらに広げるために市民に対するコントロールというか、マネジメントというか、これが非常に大事ではないかと思う。

なぜかという、今の組織の形はもう大体できていると言ってもよいが、さらに市民の方々にどのようにアプローチをして協力していただくか。さらに、このような立派な答申案を市民に分かっていただき、利用していただくという両面がある。だから、その辺を意識して実行に移していかなければいけない。せつかくできたものが有効に活用できるようにお願いしたいと思っている。よろしく願います。

会長：ありがとうございます。続いて鯨岡委員、願います。

委員：いろいろ勉強させていただき、感謝申し上げます。日頃業務の中で福祉というのはそれほど強く意識したことはなかったが、薬の業界で言うと、地域連携や地域支援というのは非常にキーワードで、薬局から外に出てつながっていくことを今、非常に重要視している。そこを意識していくことと、さらに連携の充実を進めていくことは非常に重要だと感じた。

今、個人的には災害の担当をしている。プランの中で災害のことも記載があったが、災害時の医療体制の充実というのは非常にテーマである。われわれも日頃からあくまでイメージして進めていくのだが、この場合も医療関係者だけではなくて、地域の方々の理解をもらいながら進めていくことの重要性を改めて考えさせていただいた。いろいろと勉強させていただき、ありがとうございます。

会長：ありがとうございました。では、続いて陶山委員、願います。

委員：名簿も確認していただければと思うが、私はもともと町田市介護サービスネットワークを代表してこの会議に参加させていただいている。町田市介護サービスネットワークというのは、高齢福祉分野を中心とした介護保険事業所の横のつながりで、特別養護老人ホームであったり、デイサービスであったり、ヘルパーステーションであったり、訪問看護ステーションであったりと、あらゆると言っても過言ではないと思うが、事業所が参加しているネットワークである。その代表で出ているので、町田市で介護保険事業を仕事としてやっている者たちとこの「地域ホットプラン」を共有していく仕組みを、私を中心にやっていくべきなのだろうと思っている。

社会福祉法人のみならず、介護保険事業所や、今、薬剤師のほうでも話が出た地域と連携していくこと、さらには、社会福祉法人の広域活動を推進していくところも持っているの、何を推進すべきなのかは、この「地域ホットプ

ラン」の中から抽出して計画を作って行っていく必要があると思っている。介護人材の事業計画も、この「地域ホッとプラン」を意識したところに落とし込んでいきたいと思っている。

あとは、同時に個人的なミッションが含まれているわけだが、鶴川地区協議会の事務局長を務めさせていただいているので、その視点でもこの会議に参加させていただいた。そのようなことで言うと、ここに掲げられている数値を誰が管理して進行していくのかについて、事務局長の私は常にそれを意識してこれから地域で暮らしていこうと思っている。

また、同時に悠々会という社会福祉法人の理事長を務めているが、私ども社会福祉法人悠々会としての来年度の事業計画も、この「地域ホッとプラン」を意識したところで、その中で悠々会としては何の役割を担うことができるのか。また、延期になってしまったが、地区別懇談会からも、地域の中で私どもが負うべきものを意識できればと思っている。そのように役立てられればと思っている。

長くなって恐縮だが、一番期待をしながら取り組んでいきたいのが、この中にある地域福祉コーディネーターである。地域福祉コーディネーターの方の居場所をどこにするかと、誰とどのような頻度でつながりながら情報を共有する仕組みを具体的につくっていくか。また、たった1人配属される地域福祉コーディネーターを孤立させないための、子育て、障がい、高齢の皆で、生意気な言い方だが、その方を地域に溶け込ませて育てていく環境を地域でどのようにつくっていくのが非常に重要だと思っている。

その辺を地域特性に合わせて取り組みながら、また、それをここにいる皆さんと共有しながら進めていく。PDCAサイクルを確認する。今日で皆さんと顔を合わせることは基本的に終わるわけだが、あれからどうなったかということをもっとこのメンバーで、新しいメンバーも加わることになると思うが、そのような仕組みも同時につくっていくことを模索してみたいと思っている。ありがとうございました。

会長：ありがとうございました。次に長崎委員、お願いします。

委員：非常に素晴らしい答申案ができたと思っている。われわれ歯科医師会は福祉というものにはなかなか関わるのが少ない業界ではあるが、これから地域包括ケアも非常に重要になってくると感じているので、そのようなところで協力できればと思っている。これからますます高齢化社会を迎えていくので、少しでも地域のためにお役に立てるようにわれわれも協力したいと思うので、今後ともどうぞよろしくお願いします。

会長：ありがとうございました。続いて馬場委員、お願いします。

委員：この計画の13ページには計画の位置付けとして、本計画と町田市社会福祉協

議会の第5次町田市地域福祉活動計画が連携する関係にあると位置付けられているとともに、第5章の中では担当部署として社会福祉協議会の名前も出ている。ですので、ここでこの計画について論評や感想を言う立場というよりも、社会福祉協議会の計画の一部であるという認識を持っている。

先ほどお話したように、この計画と社会福祉協議会の地域福祉活動計画は連携している計画なので、その中で地域福祉活動計画では、地域とのつながりをより強くするために、この原町田の場所だけではなくて地域にサテライト、出張所のようなものをつくり、それを目指していく計画になっている。

そのようなことで、より地域とのつながりを強くする中で地域の皆さまと協力し、町田に住んでよかったと市民の方から評価をいただけるような形に持っていければ、「地域ホッとプラン」の数値を達成するということは社会福祉協議会への信頼も高まったという結果になると思うので、今後、市とともにこの計画の推進に向けて努力していきたい。

会長：ありがとうございました。では、続いて町野委員、お願いします。

委員：会議を重ねていく中で、自分の住む町が住みやすくなるためには何をどうしていけばいいのか、何が必要なのかなどいろいろ考えるようになって自分気が付いた。この会議に出たことによりそのような機会をいただけたのだと思い、参加させていただいてとてもよかったと思っている。

民生委員として地域福祉に携わる立場であり、現実に生活困窮の方、あるいは児童虐待、8050問題というような多くのケースに当たっているが、支援が行き届かない方へのサポートが、少しでもこの「地域ホッとプラン」に従って実現できるようになったらよいと期待している。

地区協議会のほうにも少し関わっているが、今回、地区別懇談会がいろいろな世代の人を取り込み、いろいろな意見を聞こうという呼び掛けも非常に努力してやっていらっしゃる。私もPTAの方たちに声を掛けてはいるが、先ほど陶山委員がお母さまと親子で参加していただこうということをおっしゃっていて、とても良いアドバイスをいただいたと思った。私もこれから進めていければと思っている。

最後まで委員の皆さまと対面できなかったことが大変残念だが、本当にありがとうございました。

会長：ありがとうございました。続いて村田委員、お願いします。

委員：1年半にわたり、いろいろとありがとうございました。3点ほど思ったところをお話しさせていただきたい。

まず、私は町田市法人立保育園協会の代表で出ているが、私たちは社会福祉法人が運営するところもあれば、NPOというところもある。しかし、地域貢献はこれから社会福祉法人を運営するに当たってもとても大切などころであ

り、今までよりもさらに重視していかなければいけないという流れがある。その意味でも、このような計画の策定に参加させていただき、ありがたいと思う。

2点目は、今度は保育園ということで、子育て中の保護者の方という中でも2つほど思った。まず1点は、受益者側というか、困窮している家庭は非常に多い。それで、この計画にどこまでその方たちをご理解いただけているのか。救いの手が実はあるのだということも、もっと分かってもらえるとよいのではないかというのが1点と、今度は逆に担い手側である。今もいろいろな世代の人が、これからはこのような活動、プランも併せて参加していくという中でも、若い世代の保護者の方が多いので、そのような方たちの参加を促すことも役割としてあると思った。

最後3点目は個人的なことだが、私は実はこのような審議会に参加させていただくのは初めてで、行政の施策がこのような形で非常に多くの方が参加しながら、時間をかけて丁寧に行われているということも初めて経験したもので、大変勉強になり、不勉強ながらありがたいと思った。

今後このプランがより良くなっていくことも私たち市民一人ひとりの力なのだと思つたので、今後ともどうぞよろしくお願ひしたい。どうもありがとうございました。

会長：ありがとうございました。続いて森委員、お願ひする。

委員：町田市社会福祉法人施設等連絡会は、障がい福祉に携わる社会福祉法人が中心となっている連絡会である。この委員会に参加させていただき、いろいろな今後の計画を早めに知ることができ、とてもありがたいと思つている。

私の法人だけではなく、関係する方たちにぜひこの「地域ホッとプラン」を知っていただきながら、一緒にまちづくりを進めていければと思つている。委員の皆さまには、どこかでお会いすることもあるかと思うが、どうぞよろしくお願ひします。本当にありがとうございました。

会長：ありがとうございました。それでは、佐藤職務代理からお願ひする。

委員：会長、これまでとりまとめていただき、ありがとうございました。また、委員の皆さまからこれまで地域の実情に合わせたいろいろな思いなどをお聞きし、私も非常に勉強させていただき、ありがとうございました。この「地域ホッとプラン」を作っていく作業の中で、町田市の方々が非常に努力をされていたのがすごくよく分かるプロセスだったと思つている。

しかし、計画として非常に大きなものになってきているので、それをいかに私たちが地域の視点で町田市の方々をお支えしていくのかというのももちろんある。また、きちんと実行していただけることをわれわれがしっかり見ていく必要があると思つている。

地域で何かをしていくことが今後本当に大切になる。分野別のものでは、も

う今は問題が解決しないということが非常に差し迫っていると思うので、われわれも含めてだが、分野横断的な考え方を福祉の領域でしていく。その意味では、地域ということが非常に大きな役割を担っていくと思っているし、われわれも大学としてできることを考えていきたいと思っている。本当にありがとうございました。

会長：ありがとうございました。では、最後に私から一言申し上げさせていただく。

1年半に及ぶ、また、このコロナの中でという、普段皆さんもなかなか事業や活動が思うようにいかない中で、忸怩たる思いをこの計画にどう反映させていくか、コロナ禍ということで非常にいろいろなことが問われたと思うし、また今後の展開でも問われると思う。

ご承知のように、2025年は団塊の世代の方たちがすべて75歳以上になる。町田市も一段と超高齢化が進むのが5年後だということは、それが目前に迫った計画であるということである。

また、今回は福祉の部門と市民協働が協働して作った計画である。先ほど目標値もあったが、市民が自分のまちに、また暮らしに関心を持ち、自ら動き、考え、提案する。そのような積極的な市民を地域の中でどのように発掘していくか。これは福祉だけでは弱いわけであり、その辺りでもパワーアップを期待したい。

また、資料の107ページを見ていただくと、これまでの町田市の行政内部での検討組織の一覧が出ています。庁内の策定検討委員会として、かなり幅広い各々が載っている。庁内の策定専門部会もまた、協働検討作業部会、包括的支援検討作業部会ということで、実は今回の「地域ホッとプラン」策定に当たっては町田市役所の中で相当活発な議論がなされただろうと思う。このことは、私は非常に大きな財産だと思っている。

佐藤職務代理からもあったが、もう狭い意味での福祉だけでは、私たちの暮らしの問題にはなかなか対応できない。このコロナで非常に多くの孤立している人、生活困窮している人が出ている。今まで福祉の対象でなかった方たちがそうになっている。そのようなことも含めて、町田市の中でも縦割りではない、各部署が連携するプロセスの一つがある程度できた。これを実践により、さらに深めていただきたい。

それから、民間団体もそうである。今まで日本の福祉は児童・障がい・高齢・生活保護に分かれていたので、高齢者だけやればよい、子どもだけやればよいと、どうしても民間でもそのような考えで、制度の中でやればよいだろうとなっていた。しかし、そうではないと思う。やはり地域であるし、もしかしたら介護ではヤングケアラー問題があるかもしれない。ヤングケアラー問題はどこが対応するのか。まさに家族の中で障がいのある人がい

る。そのきょうだいも支えている。児童でもあり、障がいでもあり、高齢でもあり、生活困窮でもある。皆で知恵を寄せ合って役割分担をしていく。誰かの責任に押し付けるのではなくて、皆で分担していく。協働していく。それが町田の中で、地域で、さまざまな場面で、ぜひ力を付けていっていただきたいと思う。

最後に、私が1月10日に明石書店から発刊した『住民力』という本のチラシを配布させていただいた。私が約20年間にわたって関わった地域の取組の事例である。松江市の湊北台というところは、今現在高齢化率が約40%である。しかし、要介護認定率は全国平均並みで大体18%である。一番多い住民層は80代の前半層、もう数年たつと80年代後半層が一番多い住民層になる。元気な高齢者が多い。十数年にわたり住民それぞれが持てる力を出し合っ

てつくってきたのが松江市の湊北台である。大事なのは、住民一人ひとりが自分の地域を愛し、自分だけではない他の人の暮らしも考え、住みやすい地域をつくっていくこと。私は町田の相原地区にもう10年以上関わっているが、相原についても書かせていただいた。少し町田市の行政については厳しいことを書いてある部分もあるが、今はだいぶ変わったのでご容赦いただきたい。

ということで、この『住民力』は7つのポイントということでまとめさせていただいた。学術書というよりは一般市民の方にも読みやすい内容になっているので、ぜひ少しでも力になればと思うので、いろいろな方にもお勧めいただければ幸いである。

皆さんからお話があったように、計画が絵に描いた餅にならないように、この計画の考え方を皆さんで1人でも多くの市民の方に共有していただき、町田市の中の住民力を高める。さまざまな世代の方が地域の方を考え、その住民力を生かしていく。そのようなこの「地域ホッとプラン」、まさにホッと町田に、私も職場は町田市になるので、今後とも少しでもお力になればと思う。

皆さん、本当にずっとオンラインで、対面でお礼を申し上げたいところだが、またの再会を対面でしたいと思う。1年半、大変ありがとうございました。

4. 閉会

(1) 地域福祉部長あいさつ

地域福祉部長：閉会に当たり、事務局を代表して一言ご挨拶する。2020年8月18日に第1回の審議会を開催させていただき、それ以来、今日まで約1年半にわたり、全部で8回の審議会を開催させていただいた。開催に当たっては、ほぼすべての会がコロナ禍でのリモート開催となり、委員の皆さまと直接顔を合わせることができたのも第1回のみということで、大変ご不便をおかけしてしま

った。先ほども少し画面が乱れ、リモート開催の難しさについて改めて感じたところである。その中であって、無事に閉会を迎えることができたのは委員の皆さまのご尽力の賜物と心から感謝を申し上げる。

この間、委員の皆さまから頂戴したご意見、ご提言を通じ、市民の困りごとや地域の課題を解決するためには、市民、地域活動団体、事業者をはじめとした地域の皆さまのご理解を得ながら、より深い協力関係を築き上げていくことがいかに重要であるかということに改めて強く感じたところである。

2020年度の社会福祉法の改正をはじめとして、地域におけるコミュニティの希薄化や分野横断的な支援体制の構築など、様々な課題が山積する中での策定ではあったが、皆さまのお力添えにより、答申案をとりまとめるところまで来られたのだと感じている。

宮城会長をはじめ、委員の皆さまに多大なるご尽力をいただいたこと、改めて御礼申し上げるとともに、引き続き計画の推進に向けて、お力添えを賜ることをお願い申し上げて、閉会のご挨拶とさせていただきます。約1年半の間、ありがとうございました。

以上